

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 26 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380497

研究課題名(和文) Knowledge Management for Foreign Direct Investments: Comparative Analysis of Japanese and Foreign Inbound and Outbound Investments

研究課題名(英文) Knowledge Management for Foreign Direct Investments: Comparative Analysis of Japanese and Foreign Inbound and Outbound Investments

研究代表者

マニエー渡邊 レミー (Magnier-Watanabe, Remy)

筑波大学・ビジネスサイエンス系・准教授

研究者番号：00527848

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：経済投入としての知識の基盤が明らかになった。知識は、土地、労働、資本と同等の経済的生産要素として扱われ、管理されるべきである。幅広い知識の提案モデルは、現存する知識ストックを割り振り、知識のギャップを見つけ、それらを埋めるためのコストを調べ、保護の価値がある知識かどうか見極め、企業によって応用される。

第2の大きな発見は、管理革新を企業パフォーマンスの向上に変換する際の暗黙知と、形式知の両方を仲介する役割である。この最重要点は、まず性能を強化するために必要な知識タイプの管理革新(例えば、HR インセンティブ)の必要性である。

研究成果の概要(英文)：The foundations of knowledge as economic input were clarified (Magnier-Watanabe, 2014). Knowledge should be treated and managed as an economic factor of production on par with land, labor, and capital. The proposed model of knowledge based on breadth and depth can be applied by the firm to assess its existing stock of knowledge, spot knowledge gaps and examine the cost to fill them, and identify core knowledge worth safeguarding. The second major finding is the mediating role of both tacit and explicit knowledge in translating management innovation into increased firm performance (Magnier-Watanabe and Benton, 2017). This highlights the need for management innovation (HR incentives for instance) which first considers the type of knowledge needed to enhance performance.

研究分野：社会科学

キーワード：経営戦略 知識経営

1.研究開始当初の背景

過去 30 年間に於いて、戦略的かつ重要な知識とは、すべての人にとって最も重要な資源とされてきた。この資源は効率を最大限に上げるために管理されなければならない、その管理は知的財産と知識ベース資産から価値を創出するプロセスから成る。しかし、経済学上では土地、労働、資本で構成される生産要素と認識してきた。しかし、近年、社会資本の形で第 4 の要素が浮上してきており、その定義には知識がはっきりと含まれている。知識に対するこの新しい評価は、生産の他の 3 つの古典的要因を強調した産業経済とは対照的に、今や一般的に知識経済と呼ばれるものに向かってパラダイムシフトを作り出した。

同時に、企業の平均寿命は過去数十年で著しく低下しており、企業は変化する市場や社会環境のニーズを満たすためにイノベーションを継続的に導入しなければならない、時代遅れとなっている。このような激しい環境下では、企業におけるイノベーションの管理がますます難しくなり、人材管理などの経営革新や企業業績の向上につながっているかどうかを徹底的に調査されている。

2.研究の目的

経済的インプットの状態へ知識が向上しているにもかかわらず、生産要素としてのその特性は不十分である。これまでの研究では、戦略的管理に関与する企業や経営幹部にとってはほとんど役に立たない理論的な見解を超えて、その基本的な特徴を明らかにすることはほとんどなかった。その結果、知識は資産として残っており、市場で競合することのできる企業はほとんどない。また、過去の研究は知識管理と企業業績との間に相関関係を示しているが、暗黙知と形式知の実証的研究は一致しておらず、場合によっては、形式知と暗黙知の知識移転は、負のパフォーマンス効果がある。

したがって、この研究は、先に公表された類型学に基づいた重要な知識特性を特定し、企業が容易に実践できるモデルを提案すること、そして経営イノベーションを企業パフォーマンスに変換する際の知識の役割を調査することを目指す。

具体的には、1) 経営革新を企業業績に転換するための経済的インプットとしての知識の役割、(2) 研究プロジェクトからの知識の獲得方法、(3) 日本でのインバウンド外国直接投資 (FDI) を地国化する方法を導入している。

3.研究の方法

このプロジェクトでは、さまざまな方法を使用した。(1) では、過去の研究のレビューと批判分析、日本企業の従業員に対するアンケート調査から収集したデータの条件付きプロセス分析、(2) では、カナダ、フィンラ

ンド、および日本の 3 大学の研究プロジェクトを比較したストーリーテリングと組み合わせたテキスト分析、(3) 東京で外国投資家のパネルとインタビューの連続ラウンドに依拠して、質の高いデルファイ方法論的アプローチを採用している。

4.研究成果

(1) 経営革新を企業業績に転換するための経済的インプットとしての知識の役割
この論文は、すでに知識を競争優位性として認識していたリソースベースビューよりもさらに進んでおり、知識は土地、労働、および労働の経済的要因として扱われ、管理されるべきであると主張している。既存のいくつかのタイプの知識を見直し、公益財とは異なると判断された暗黙知と形式知を代替品ではなく補完的なものとし、企業は知識ストックを評価し、知識ギャップを満たすかどうか、またどのように満たすかを決定する。幅広い知識の提案モデルは、組織に優位性を与える力を持っている。会社は、このモデルを、1) 個々にまたは集合的に所有しているコア知識のインベントリを作成する、2) 欠落している知識とそれを取得するコストを特定する、3) 難解なコア知識を容易に移転し模倣するものと区別するため、より密接に保護する必要がある。

マネジメント・イノベーションが企業業績に直接的に及ぼす影響はなく、暗黙知と形式知の両方が経営革新と企業業績との関係を完全に仲介した。マネジメントイノベーションプログラム自体は企業の業績を直接的に増加させるものではなかったが、これらのプログラムとナレッジマネジメントイニシアチブを整合させることでパフォーマンスが向上した。これは、パフォーマンスの向上に必要な知識の種類を最初に考慮する経営革新の必要性を強調する。この研究は知識の仲介の役割を明らかにし、過去の決定的ではなかった結果を明確にした。

(2) 研究プロジェクトからの知識の獲得
Hero's Journey に基づき提案された枠組みは、客観的な学習成果を明らかにすることができることを示している。そのような成果は、主に管理と管理のための資金調達機関が好まれ、主に形式知(研究論文、特許、掲示板、ブログ投稿など)に依拠した研究努力の成果に焦点を当てている。さらには、研究に従事するプロセスに関連しており、2 つのグループに分類することができる。第 1 は、データ分析から結論の合成まで、研究作業を行うことに関する経験的な学習である。第 2 は、他の研究者との共同環境での作業に密接に関連するリレーショナルラーニングである。実際は、研究分野に関わらず、他の場所の研究グループに、ストーリーテリング(または会話)を行い、研究プロジェクトに参加し学ぶことである。長期的な改善では、プロセス

はより良い生産性につながる。学術生産性は、学術研究の世界を支えるエンジンである。

(3) 日本における外国直接投資の類型

日本の FDI インバウンドのモデルは、投資の性質と市場の成熟度に基づいて4つのタイプの投資家を特定した。確立された存在感とブランド名を持つエンパイアビルダーは、成熟した市場にグリーンフィールドの投資を行っている。地元の格差を埋めるニッチ・プレイヤーは、事業をゼロから始めることで、成熟していない地方の市場に参入した。救助者は、成熟した市場にいる地元の企業を引き継いだ。チェリーピッカーは有望な市場で有望な地元の中小企業を買収した。

この経験的研究は、フランスの企業が、日本の市場がまだ成熟していないときに、有名になろうとし入国したニッチプレイヤーの優位性を明らかにしている。加えて、いくつかの外国企業は、救助者、チェリーピッカー、ニッチプレイヤーのアプローチにより市場の条件や買収可能な企業に基づいて、FDI 戦略に従事することが判明した。さらに、ニッチ・プレイヤーは競争の激化や成長率の低下に対処する際に、時間の経過とともに帝国の建設者になることがある。

日本では、買収対象が限られているため、一般的な買収には抵抗感があり、合併事業の設立につながる。買収に直接関心を持つ外国企業は、財務的な困難を経験した地元企業を探したり、明確な承継計画を持たずに家族が所有したり、または一部の資産を売却する必要がある大企業の一員となる。日本は外国直接投資 (FDI) の面で不均一であり、海外投資は外国直接投資をはるかに超えている。したがって、日本の FDI インバウンドの状態は、その国とその歴史を考慮されるべきである。これらの文化的特徴と国の独創的なイノベーション能力は、地元の規制要件や消費者と地域のパートナーの期待に合わせた体系的なオーダーメイドのアプローチを必要としている。実際、ベテランの外国企業の経験豊富なマネージャーのインタビューでは、日本が固有のものであることが確認されていますが、このモデルは、国内市場の縮小や国際競争の激化など、同様の条件にある他の国への投資の教訓を提供できる可能性がある。その結果、日本は、日本の経験と実践を他の場所に移転する方法を検討できる外国直接投資家に、有益なベンチマークを提供することができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Secundo, G., Magnier-Watanabe, R., Heisig, P. (2015). Engineering knowledge and information needs in Italy and Japan:

Bridging the gap between theory and practice. *Journal of Knowledge Management*, 19(6), pp. 1310-1334.

Magnier-Watanabe, R. (2014). Assessing knowledge as economic input for strategic management. *Journal of Strategic Management Studies*, 6(1), pp. 24-32.

[学会発表](計6件)

Magnier-Watanabe, R., Benton, C. (2017). Knowledge for translating management innovation into firm performance. Proceedings of the 12th Knowledge Management in Organizations Conference (KMO 2017), Beijing (China), CD-ROM.

Machado, M., Magnier-Watanabe, R., Peltola, T. (2016). Capturing Knowledge from Research Projects: From Project Reports to Storytelling. Proceedings of the 2016 Portland International Conference on Management of Engineering and Technology (PICMET 2016), Honolulu, HI (USA), CD-ROM.

Magnier-Watanabe, R. (2015). Recognizing Knowledge as Economic Factor: A Typology. Proceedings of the 2015 Portland International Conference on Management of Engineering and Technology (PICMET 2015), Portland, OR (USA), CD-ROM.

Secundo, G., Magnier-Watanabe, R., Heisig, P. (2014). Exploring Engineers' Knowledge Needs in Italy and Japan: Does Practice Confirm Theory? Proceedings of the 2014 British Academy of Management Conference (BAM 2014), Belfast (Ireland), received 'Best Full Paper Award', CD-ROM.

Magnier-Watanabe, R., Benton, C. (2014). Identifying the knowledge needs of Japanese engineers. Proceedings of the 9th Knowledge Management in Organizations Conference (KMO 2014), Santiago (Chile), CD-ROM.

Magnier-Watanabe, R., Lemaire, J-P. (2014). Inbound Foreign Direct Investment in Japan: A Typology. Proceedings of the 2014 Academy of Management Annual Meeting (AOM 2014), Philadelphia (USA), CD-ROM.

[図書](計2件)

Magnier-Watanabe, R., Benton, C., Senoo, D. (2015). A study of knowledge management enablers across countries, in Edwards, J.S. (Ed.), *The Essentials of Knowledge Management* (pp. 175-195). Palgrave Macmillan (ISBN 978-1-137-55208-2).

Magnier-Watanabe, R., Benton, C. (2014). Identifying the Knowledge Needs of

Japanese Engineers, in Uden, L., Fuenzaliza Oshee, D., Ting, I.-H., Liberona, D. (Eds.), Knowledge Management in Organizations: Lecture Notes in Business Information Processing Volume 185 (pp. 233-242). Springer, Berlin (ISBN 978-3-319-08618-7).

6 . 研究組織

(1)研究代表者

マニエー渡邊レミー
(MAGNIER-WATANABE REMY)

筑波大学・大学院ビジネスサイエンス系・准教授

研究者番号：00527848